



—東地中海地域ニュース—

トルコ：駐米トルコ大使の辞任

(12月10日付現地紙)

1. 12月9日、トルコ外務省は、ナービー・シェンソイ駐米トルコ大使が自らの希望により駐米大使の職を辞し、本省に帰任すると発表した。同大使は2006年1月から駐米大使を務めていた。
2. 同大使の辞任では、今回のエルドアン首相の訪米（12月6日～9日）に際して生じたダーヴトオウル外相との摩擦が直接の引き金となったようである。
エルドアン首相およびダーヴトオウル外相は、オバマ米大統領との首脳会談に両国外相も出席することを希望していたが実現せず、会談は当初の米側案に従い両首脳と通訳のみのテタテ（2人だけの差し向かいの会談）となった。ダーヴトオウル外相は、両国代表団間の冒頭挨拶の後クリントン国务長官以下米側が退席したため、自らも退席を余儀なくされた。外相の「我々の希望を米側に伝えなかったのか」との詰問に対し、シェンソイ大使は「伝えていません。ご希望なら私は辞任しても構いません」と答えたようである。
3. 今回の訪米は専ら首相アドバイザーが中心となって首相府が直々に準備し、在米トルコ大使館および外務省では十分な協議がなされず、在米大使館は立場を失った形となったため、シェンソイ大使は強い不満を持っていたと伝えられる。